

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		仙台市なのはなホーム				公表日	令和8年 3月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12		保育室は3室確保できるよう設計されている。利用定員に合わせた活動ができるスペースがあり適切である。	利用人数と保育を行うスペースは適切であるが活動内容や日々の生活を考慮し、その場所の使い方を適切となるよう考え使用していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		利用児数に合わせた配置をしている。こどもの状況や活動に合わせフリー職員も入り体制を作っている。	適切に配置はしているが、職員の休みが重なるときには厳しい体制になる場合がある。フリーで動ける職員も確保しながら余裕をもって保育ができる体制を検討していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12		全室バリアフリー。外のテラスから園庭に出る段差は低く、またシートを引き段差の危険性に対応している。自分のマークを手掛かりとしてこどもが動けるよう靴入れ、ロッカー、椅子、フック、靴下入れにマークを付けている。	わかりやすい環境ではあるが、日々の生活への取り組みとして、視覚的な支援などより充実していける部分があると考えます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	1	清潔を保てるよう日々丁寧に清掃、消毒を行っている。老朽化に伴い、こども用のトイレの扉が閉まりにくく危険となっている。扉の縁にカバーをつけて安全対策をしている。手洗い場は1か所2つの水道しかないため手洗いの時間が重なり混雑する。クラス間で連携しながらスムーズに行えるよう工夫している。	サッシや室内の扉の開閉でこどもが怪我をしないよう、危険が予測される場所や個所を共有し対応していく。職員が日々丁寧に開閉したり、整理整頓を心がけ自らが環境を整えていく行動をする。また、老朽化にともない修繕等は仙台市に相談している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	1	相談室や空いている保育室を利用できるようにしている。	いつでも使用できるよう整理整頓されている環境を作っていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	2	職員全員が出席できるようになんとか時間をつくりながら行っている。	非常勤職員も出席できるよう計画していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	3	保護者の意向について職員全体で把握し話し合っている。	話し合う時間をとり、業務改善につなげるよう努めたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	3	意見を把握する機会をつくりながら話し合いをしている。	業務改善につなげるよう努めたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	3	外部評価を共有して改善できることは努力している。	外部評価を受けながら、業務改善に努めたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		全職員研修や、階層別研修、幼児部門での研修など、年間を通して計画し取り組んでいる。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		5領域に合わせた内容を基本として作成し公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		視点が偏らないように子どものアセスメントを適切に行いながら課題を確認し計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		主に正規職員が中心となるが全職員で話し合い検討している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		職員間で共有している。計画に沿った支援を行なえるよう確認しながら努めている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	2	センター共有のアセスメントシートは十分に活用できていない。インフォーマルなアセスメントは日々意識おこないこども理解に努めている。	アセスメントシートの活用と検証、インフォーマルなアセスメントをより充実させこどもの理解を進める努力をする。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12		必要な項目を設定し、具体的な支援ができる取り組みの内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12		個別の課題と集団での課題の項目を設けている。小集団での活動とそこでの個別の取り組みを計画し取り組んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	1	時間を作り活動の打ち合わせや準備することに努めてきた。	事前の打ち合わせや話したことの共有をクラス間で連携しながら取りくめるよう努める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12		振り返りや打ち合わせなど行うことに努めてきた。	振り返りや打ち合わせの内容を不在職員と共有していきよう伝えあう。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	1	日々記録はとっている。支援の検証や改善につなげていきよう努めている。	気づきや疑問などタイムリーに行い支援につなげていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	1	引継ぎなどはこどもを理解した職員が参画している。児童発達支援事業との会議は行われていない。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	1	保育所、幼稚園、認定こども園との併行利用は行っていない。移行支援として引継ぎや情報の共有はしている。センターの見学会を開催し相互理解や移行支援に努めている。	引き続きセンター見学会を開催。在園児の移行支援や、地域の園との相互理解を進めていきよう努めていきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	10	2	児童発達支援センター同士の連携や取り組みは積み重ねてきたが、児童発達支援事業所とは出来ていない。	児童発達支援事業所との連携につながる取り組みを進めていきたい。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	10	2	助言を受ける機会が少ない。外部研修は参加している。	専門家より助言をもらう機会を作ることを検討していきたい。また外部研修の学びを共有し深めていきよう努めたい。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6	6	地域の活動に参加しているが積極的ではない。	目的などを確認しながら参加できることはしていきたい。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12		近隣の保育園と交流保育を年4回行っている。	引き続き行っていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		登園時の聞き取りや帰りのミーティングは勿論のこと日々の会話を大事にし共有理解できるように信頼をもらえるよう努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12		今年度は保護者研修としてペアレントプログラムをまとめたものを行った。	「ほめる子育て」という内容で引き続き行っていきたい。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12		行事等で父同士のつながりを作ったり、きょうだい参加できる内容を盛り込むなど家族で交流できることを大事にした内容を心掛けている。	引きつづき行っていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。	11	1	地域の親子向けの夏祭りを開催している。町内会の清掃や会議に参加したり、行事に来ていただく機会を設けている。	引き続き行っていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	1	事前に保護者に記載してもらった健康の記録等で確認している。職員全体での共有もしている。	服薬や発作の対応など変更になったことの周知を徹底し、こどもの安全を守るよう努める。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11	1		身体拘束を実施することはなかったが、個別支援計画に記載する流れの確認をしていく。